

H29年度の加速化の主な取り組みと実績

土佐はちきん地鶏の販売拡大

年間12.5万羽体制の実現に向けて、新たなブランド戦略を構築し、首都圏など県外での販路開拓や地産地消などの取組を加速

【販路の拡大】

- 地産外商公社等と連携した商談会等
 - ・土佐はちきん地鶏の試食会（2月・まるごと高知）
 - ・イタリアレストランでの「土佐イタリア料理フェア」(2・3月・東京9店舗)
- 商談会、イベント等への出展・PR
 - 高知県産品商談会(5月)、土佐っおいしい！食の大商談会(11月)、土佐の宴(11月)、土佐の豊穡祭(11月) など

【ふるさと納税返礼品への対応】

大手ふるさと納税サイトでの運用開始（7月～）、返礼品の充実

【嶺北地域での取扱いの拡大】

地域イベントへの出展・PRや地域飲食店等への営業

【アドバイザーの導入】

専門家による現地アドバイザー(3回)

H29年度の主な成果 【出荷羽数】 H28:6万羽→H29:7.6万羽
【土佐はちきん地鶏売上高】 H28:100百万円→H29:133百万円

村内に経済効果が及ぶよう、大川村白滝の里観光交流アクションプランを優先順位を付けて絞り込み（重点化）

【観光資源を活用した体験型観光の推進】

- 石鎚山系グレーディング調査実施、パンフレット作成、YMAPアプリ掲載
- 日本ロングトレイル協会へのコース登録
- 体験型観光プログラム（山歩きツアー等）6回開催、延べ48人参加
- 白滝の里改修を決定

【旅行商品の開発】

- 四国のてっぺんツアー開催、267人参加
- インバウンド観光事業者のモニターツアー実施 1社
- 湖面を活用した体験メニュー（SUP）の企画立案

【食の発掘と活用】

- 大川村でしか食べられないメニューの開発

【都市との交流】

- イベント、交流会（謝肉祭等）開催、延べ約1,800人参加

これらの取り組みを通じて

H29年度の成果

白滝の里宿泊者数
目標 1,200人
↓
実績 1,310人

【アドバイザーの導入】

- 専門家による現地調査を実施 → 観光コンテンツの魅力と課題、資源を活用した周遊ルート案を提示

集落活動センター「結いの里」を活用した観光・交流の取組と、新たな移動手段・物流の仕組み構築の取組

【拠点機能の充実】

- 学校給食等の提供
- 新たな飲食メニューの開発
 - H30.2～はちきんラーメン、玉緑茶アール提供開始
- 農産物・特産品の取扱いの拡大 ○パンフレット等の配布

【新たな移動手段・物流の検討】

- 先進地視察（宮崎県西米良村）の実施
- 貨客混載推進検討会（3回）の実施

H29年度の成果 提供数…給食等約70食/日、ラーメン237杯、プリュレ103個
取扱数(通年)…産直商品約140品目、その他約40品目
貨客混載推進検討会で、大川村における貨客混載スキームを承認

課題・方向性

◆食鳥処理・加工施設の早期安定運営

→ 食鳥処理・加工施設を安定的に運営できる体制を早急に整備

◆販売の拡大

→ アドバイザーから示された課題の解決と方向性を踏まえて販路の拡大に取り組む

H30年度の重点取組

●食鳥処理・加工施設の安定運営

- 新たに食鳥処理の専門家を導入し、職員のスキルを向上
- 作業工程の見直し（施設の改善を含む）

●販売の拡大

- 県外への攻めの営業活動
 - 全国規模の商談会への出展、まるごと高知での試食商談会の開催
- 新たに食肉流通の専門家を導入し、大手との取引を検討

●人材の確保・育成

- 魅力ある旅行商品の企画開発、販売、営業を行う観光プロフェッショナルの確保と育成を図る
 - ・地域おこし協力隊の更なる積極的な募集(4月～ 報酬月額UP)
 - ・民間活力の導入(ホールアースと契約締結4/27)

●HP充実やSNS活用等の効果的な情報発信

●旅行商品の磨き上げ

- アドバイザーの助言を活かした付加価値の高い体験型観光メニューの造成に取り組む(山歩きツアー等5回延べ22人参加 6/15現在)
 - ・広域で連携した商品づくり(嶺北地域、石鎚山系)
 - ・ダム湖面を活用した体験メニューの開発

●白滝の里施設改修基本計画の策定

●生活支援部会と連携した大川村ならではの新たなメニューの開発

H30年度末目標

白滝の里宿泊者数
1,400人

◆メインリーダーとなる人材の確保・育成

◆効果的な情報発信

◆魅力ある商品への磨き上げ

◆白滝の里の各施設の老朽化

◆新たなメニュー開発のための生活支援部会との連携

◆拠点機能の強化

◆新たな移動手段・物流の仕組みの構築

●拠点機能の強化

- 特産品を活用した新メニューのほか特産品・土産品の開発、農産物・特産品の取扱い拡大や、情報発信に取り組む

●新たな移動手段・物流の検討と実証

- 新たな移動手段と貨客混載の検討を深め、実証運行に取り組む・村民への周知やニーズの把握

H30年度末目標 新メニュー等の開発数：5品
取扱数(通年)：産直商品・その他 あわせて+10品目
貨客混載の実証運行の実施